

『吾輩は猫である』 上篇自序

夏目漱石

青空文庫

「吾輩は猫である」は雑誌ホトトギスに連載した続き物である。固より纏もとつた話の筋を読ませる普通の小説ではないから、どこで切つて一冊としても興味の上に於おいて左さしたる影響のあろう筈はずがない。然しかし自分の考ではもう少し書いた上だと思つて居たが、書肆しよしが頻しきりに催促をするのと、多忙で意の如ごとく稿を続つぐ余暇がないので、差し当り是これだけ 丈を出版する事にした。

自分が既に雑誌へ出したものを再び単行本の体裁として公にする以上は、之これを公にする丈だけの価値があると云う意味に解釈されるかも知れぬ。「吾輩は猫である」が果してそれ丈の価値があるかないかは著者の分として言うべき限りでないと思う。ただ自分の

書いたものが自分の思う様な体裁で世の中へ出るのは、内容の価値如何いかんに関らず、自分丈だけは嬉しい感じうれがする。自分に対しては此事実が出版を促うながすに充分な動機である。

此書を公けにするに就ついて中村不折氏は数葉の挿画をかいてくれた。橋口五葉氏は表紙其他の模様を意匠してくれた。両君の御蔭おかげに因よつて文章以外に一種の趣味を添え得たるは余の深く徳とする所である。

自分が今迄「吾輩は猫である」を草しつつあつた際、一面識もない人が時々書信又は絵端書杯えはがきなどをわざわざ寄せて意外の褒辞ほうじを賜わつた事がある。自分が書いたものが斯こんな見ず知らずの人から同情を受けて居ると云う事を発見するのは非常に難ありがた有いい。今出

版の機を利用して是等の諸君に向つて一言感謝の意を表する。

此書は趣向もなく、構造もなく、尾頭の心元なき海鼠なまこの様な文章であるから、たとい此一巻で消えてなくなつた所で一向差さし支つかえはない。又實際消えてなくなるかも知れん。然し将来忙中に閑ぬすを偷すずりんで硯の塵を吹く機会があれば再び稿を続つぐ積もりである。猫が生きて居る間は——猫が丈夫で居る間は——猫が気が向くときは——余も亦筆またを執とらねばらぬ。

明治三十八年九月

青空文庫情報

底本：「夏目漱石全集第十卷」筑摩書房

1966（昭和41）年8月30日初版発行

入力：富田倫生

校正：林 幸雄

2008年7月22日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

『吾輩は猫である』上篇自序

夏目漱石

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>